

事業者名：

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「九人に九つの風景」を理念とし、20年間、その実践に向けて、職員、管理者、経営者ともに努力しているところです。 | 理念を施設内に掲示するとともに、開設当初から続けてきた、利用者の声を地道に拾い分析し、日々の行動に反映することが根付いています。現場職員の方への聞き取りからも理念の浸透が伺われました。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 感染症への配慮もあり、地域の人との交流がめっきりへつている状況ですが、職員に地域の人が多いという利点をいかして、日常的な情報発信ができていますと考えています。 | 感染症対策で困難な中、職員を通じて近隣の方との情報交流や、ご家族、かかりつけ医ともコミュニケーションを丁寧に行うことで、付き合いが途切れないようにしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 上記同様、以前のように活発な支援はできにくい状況にありますが、併設の地域密着型通所介護と協働して、介護の方法等の相談に乗っています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 上記同様、直接会議は今年度からで、前年度は文書を通じて、施設内の様子がわかるよう伝達方法を工夫しました。 | 運営推進会議では、利用者状況報告、身体拘束の取組み、ケアプラン作成、職員紹介、事故事例報告などが話合われていることを記録からも確認できました。 | 今後は、BOP(感染対策、災害対策)についても、議題として取り扱うことが望まれます。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 感染症を無事乗り切るための工夫など、折に触れ相談させてもらっています。包括支援センターの職員さんとは、配食サービスを行っている関係もあり、日常的な協力関係ができていますと思います。 | 運営推進会議の機会等を利用して、職員体制のこと等、協力体制のもとで確認し対応していることが分かりました。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 定期的な研修会の開催や、日常的な介護現場での疑問点(拘束にあたるかどうか等)を出し合うことで「身体拘束をしない介護」の実践につながるよう努めています。 | 職員全員の自己評価(11項目)を行い、分析し検討することを通じて、身体拘束をしないケアの実践につながっていることを、記録等を通じて確認できました。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 上記に同じです。また夜間は、施設長や事務長が在中し、困りごとの相談に乗る等、虐待を未然に防ぐ体制を整えています。 | | |

事業者名：

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | これまでは、運営推進会議等において、包括支援センターの職員による権利擁護の研修を受ける機会を作ってきましたが、感染症への配慮でそれができにくいため、文書による勉強を行っています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約の締結は、家族が安心した心理状態で行えるよう、重要事項の説明後、一定の考慮期間を置くように配慮しています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 月に一度「介護実施総括表」を家族に送付し、利用者の現状を理解してもらえるよう努めるとともに、意見や要望があれば、伝えてもらえるよう呼びかけています。 | コロナ禍もあり、ご家族とのコミュニケーションが難しい中、総括表を送る際に近況をお知らせしたりしている。 | 今回の利用者家族アンケートの結果も、今後の施設運営の参考にして頂くことで、サービス向上に繋がることと期待します。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 感染症の心配もあり、十分な会議の時間が確保できない状況ですが、施設長や事務長が、日中、夜間、在中し、職員の意見や提案をできるだけ聞き、運営に反映させるべく努力しています。 | 感染対策や設備、利用者への対応方法など、現場職員と管理者が意思疎通をはかり改善につなげていることが、ケア会議の記録等からも分かります。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の高齢化等、配慮すべき課題が多い中、できるだけ身体の負担が少なく済むような体制を整えています。また資格取得に関するバックアップ等、やりがいにつながる取り組みを行っています | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | キャリアパスおよびキャリアアップ計画書を定め、それに基づき、職員の力量に応じた研修の機会の確保、費用の会社負担等を行っています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 感染症への配慮で、交流の機会がほとんどない状態ですが、他事業所の活動内容などの情報収集を行い、サービスの質の向上を図っています。 | | |

事業者名：

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 同一法人の各事業所から入居に至るケースが多く、時間をかけて信頼関係を築いたうえでのサービス開始となっています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 同上で、例えば通所介護を利用中から、家族との関係性を良好なものとしたうえでの入居というケースが多いです。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 配食サービスや通所介護の利用を通じて、在宅がよいよ厳しくなった方を見極めた上での入居が多いです。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入所者の高齢化や、介護度のアップ等、できることが限られてゆく中で、その時その人にできることを見極めながら、サービスを提供しています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 前掲の「介護実施総括表」を活用しながら、課題があればともに解決していくスタンスでのサービス提供をこころがけています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 感染症の配慮の中でも、関係の継続ができるよう、窓越しの面会や手紙の利用などを呼びかけています。電子媒体の利用はチャレンジしてみましたが、状態の把握の難しい利用者が多く、かえって不穩が増すこともあり、今は行っていません。 | コロナ感染症対策の中で、ご家族や馴染みの方との交流には苦勞されていることが分かります。状況を見ながら、面会者に事前体調把握(検査等)を依頼するなど工夫しています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 気の合う人同士のつながりを大切にしつつ、全体でも和やかな雰囲気が保てるよう、一人ひとりの気持ちの把握や場面設定などを行っています。 | | |

事業者名：

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 感染症への配慮か、立ち寄る人はいませんが、電話や手紙等よくいただき、交流が続いています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者の生活歴や認知症の状況など、常に情報の収集を行いながら、利用者の思いと介護の実践がずれないように配慮しています。 | 自宅での暮らしぶりや生活歴を丁寧にアセスメントし、日々の思いや発言、行動を日誌に記録し、その方に応じた支援を行っていることが諸記録から確認できました。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 前掲の「同一法人の事業所から入居」が多いため、その人の背景は比較的良好に把握できていると思います。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の心身の状況をできるだけ日誌に書き込むとともに、引継ぎもむねいに行い職員間で情報の共有ができるよう務めています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 年間介護計画書に基づいたサービスが提供できるよう、アセスメント、サービスの実施、検証が行えるシステムを作っています。 | 一連のケアマネジメント過程に沿い、計画策定と評価、修正が確実に行えていることを、諸記録により確認しました。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 看護師や主治医の意見も取り入れながら、その人の全体像が把握できるよう努めながら、サービスを提供し、プランの見直しにもつなげています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 感染症への配慮でできることが限られていますが、事情のある家族の負担軽減のために、病院受診の付き添いその他、できる便宜は図るようにしています。 | | |

事業者名：

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 感染症への配慮で、地域の行事がほとんどなくなるなか、回想法を多用し、「コロナが収まったら、あそこにも行こう、こんなことしよう」と暮らしを支える地域資源の認識が続くよう配慮するとともに、新しい地域資源の情報収集にも努めています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所前からのかかりつけ医に、在宅医療を依頼し、本人も家族も安心できる医療の継続が可能よう支援しています。 | かかりつけ医の定期的な訪問診療と、状況に応じた往診と受診で柔軟な対応を行っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 併設のデイサービスの看護職員が、全員の状態の把握や、処置を行うとともに、介護記録のチェック、介護職員とのミーティング等、利用者の高齢化、重度化に対応できるよう、協働を行っています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 地域の各病院のソーシャルワーカーと日常的に連絡を取り合い、関係づくり努めています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ターミナルケアに関する同意書を交わす際、本人及び家族から重度化やターミナルケアに関する意向を聞くと共に、状況の変化に伴う気持ちの変化にも配慮した対応を行っています。 | 入居時にほぼ全員の方が、看取りを希望している。状態が変わる都度、かかりつけ医と家族との確認を行い慎重に対応していることが、関係書類から確認できました。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | これまでは、管理者や事務長、施設長等が一元的に行ってきた急変への対応を、どの職員も間違わずできるよう、実地訓練とペーパー研修と並行しておこなっています。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に二回の避難訓練を行っています。開所当初より地区消防団や地元住民とも協力関係を築いています。事業所が高台にあり、地盤も堅牢なため、地震、水害などはかえって動かないほうが安全かもしれません。 | 非常災害時を想定して、電気やガス等のライフラインの整備等に取り組み、一週間程度の生活の維持ができる準備を整えていることが確認できました。 | |

事業者名：

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者も職員も地域の人が多いので、呼称などなれ合いにならめようお互いに気をつけながら介護を提供しています。 | 利用者と職員も近い距離にあつて、状況に応じた対応を行っていることが、支援記録や現場職員からの聞き取りからも伺えます。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 適切な表現ができにくい利用者には、表情や前後の状況等を考慮しながら、真意が掴めるように職員間で情報を共有しています。自己決定がなかなか難しい人には二者択一の方法等も有効です。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床や就寝、食事時刻等、その人のペースを尊重し、おおまかな時間配分をしています。自室でゆっくり食事を摂りたい人や、朝が苦手な人など様々です。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 重度化すると、その人が最も楽な服装に段々となってきますが、家族と話し合い、好きだった色や形などできるだけその人らしい服装で過ごせるよう支援しています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 職員も高齢化し、食べなれたものが利用者と変わらないという利点(?)を活かしたメニューとなっています。春はツワの皮むきや筍の処理等利用社の出番が多くなります。干し大根も上手に作ってくれます。 | 利用者の好みや希望を聞き取りながら、一緒に献立を考えていることが、週間献立表などから伺えます。「だんご汁」や季節の食材など工夫がみられます。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分摂取量の目安は一日が単位ですが、食事は2-3日を目安として、栄養のバランスを考えています。食欲のない人に対しては、その原因をまず考えるようにしています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 他者に口腔内を触られることに強い拒否のある人にはそばで職員と一緒に歯磨きをするなど、一人一人に合わせた清潔保持を支援しています。 | | |

事業者名：

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 重度化してもトイレでの排泄が可能なよう、支援しています。また、リハビリパンツへの移行も十分に状態を検証してから行うようにしています。 | 利用者の重度化が進むなか、状態や体調に応じて排泄用品を柔軟に選択して支援しています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | できるだけ薬剤に頼らずに便通がスムーズであるよう、手作りヨーグルトや野菜等を多くとってもらっています。歩行訓練や体操などが楽しみながら行えるよう支援しています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 重度化により、職員2名対応の入浴支援もあり、その人の状態に応じた対応をしています。総じて入浴嫌いな人が多く、あの手この手で誘っています。 | 利用者のその時々状態に合わせて、柔軟に対応していることが分かります。利用者家族アンケートからも、自宅で入浴を拒否していた方が入れるようになったとの声がありました。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状態に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 寒がりな人、暑がりな人とそれぞれに合わせた個室の室温設定や、ホールでの席の配置等に配慮するほか、眠れない人の話し相手になったり等、安心感の中での睡眠が確保できるよう支援しています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 看護師より、薬剤の知識を学ぶとともに、症状の変化があれば、主治医に伝え、適切な処方につながるよう努めています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 感染症への配慮から、ボランティアによるお楽しみ会等が規制される中、少しでも生活に彩りが出るよう、季節の風物の壁画作成や回想法の充実等の支援を行っています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 感染症への配慮から、外出はあまりできていないのが実状です。周囲の散策や、庭の草花の手入れ等で気分転換を図っています。 | コロナ感染症対策のため、外出は近所の神社などへの散歩程度とのこと。外に出ると自宅に帰ろうとする方もいるとのこと、難しい状況があることが分かりました。 | |

事業者名：

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在は、金銭の管理ができない人が多数であるが、「もっているだけで安心する」という人には、なくさないよう見守りを行っています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯電話をもっている人には、充電を行い、何時でも使用していいですよと声掛けし、家族との交流を支援しています。固定電話の使用や手紙を書きたい人には、便箋・封筒・切手の用意、投函までを支援しています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 設計にあたり、共用空間に最も注力しました。大きなガラス等の木材の多用と、ベンチも人の目を気にせず、腰をおろせるように配慮しています。 | 共用空間となっているホールは、「いつもの日常」を意識した造りになっている。室内の明るさや掲示物などからも、落ち着く雰囲気を感じられる配慮がなされています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールのソファや、畳室のこたつ等、季節や気分によってくつろげるように配慮しています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所の際、できるだけ使い慣れたものをもってきてもらうよう家族にはたらきかけています。自室で過ごすことを好む人には、不潔にならないよう配慮しながら、落ち着いて過ごせるよう支援しています。 | 使い慣れたものや家族の写真など、心地よく過ごせるように配慮している。また「物とられ妄想」の方へも、部屋の様子が分かりやすいような配置がなされています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 馴染みの家具や置物は、手入れや補修を繰り返しながら、「新しくなって、わからなくなった」ことがすくなくて済むよう工夫しています。ものの置き場所も不便はあってもできるだけ変えないようにしています。 | | |